

## アメリカ大統領選雑感

樋口和彦（UC Davis 客員研究員、元弁護士）

11月8日の大統領選は多くの予想を裏切る形でトランプが勝利して終わった。

多くのマスコミ、世論調査機関は、80%台ないし90%台でクリントン勝利を予想していたのだから、「予想を裏切る」との表現に誤りはないであろう。

私の実体験としても、大統領選の話をしたアメリカ人でトランプ支持を表明した者は一人もいなかった。白人層が多く住む瀟洒な住宅街でトランプ支持を表明する立札を見ることは殆どなかった。そして上記の世論調査もあり、まさかトランプが当選するとは思ってもしなかった。

渡米前の予備選のころから表明していた私の分析は、落ちぶれた白人中産階級がトランプを支えている、そして、いつまでもトランプが選挙戦から脱落しないのは、「隠れ支持者」が相当数いるからだ、というものであった。私がかつて大統領選について話した相手の殆どはカリフォルニア大学デービス校関係者であり、上記住宅街の住人も「落ちぶれ」てはいないであろうから、この分析と矛盾するものではなかった。なお、アメリカの報道機関等の分析は、大卒白人はクリントン支持、ブルーカラー労働者白人はトランプという図式が目立っていた。

しかし、私の予想は外れた。二つの要因がありそうだ。

一つは、実はトランプを支持していたのは、「落ちぶれた白人中産階級」に限られなかったのではないかと、落ちぶれていない白人も支持していたのではないかと、ということである。彼らがトランプ支持を表明しなかったのは、そのあまりにも激しい暴言と行儀の悪さから、自分たちも同じに見られるのがはばかられたというインテリ層特有のプライドがあったからではないかと、私はそう疑っている。そして彼らは表だって支持を表明しないもののトランプの人種的偏見・差別が透けて見える発言には共感していたのであろう。もしそうとするなら、白人至上主義（White Supremacy）が未だに広く、深く潜行しているのかもしれない。ここは文化人類学に席を譲ろう。

見誤ったもう一つの理由は、世論調査結果に騙されたということである。選挙後の世論調査が外れた理由の一つに、質問に応じて答えた対象者の回答だけの分析をして、無回答者のことを考慮に入れなかった、実は無回答者の中に多くのトランプ支持がいたのではないかと、ということが挙げられている。もし、そうとするなら驚くべきことではないか。

すでに述べたように、私のような素人でも「トランプ隠れ支持者」の存在を認識していた。当選「確率」を言う調査機関やマスコミは、確率論という学問分野に少しでも意を払うのであれば、当然にこの「隠れ支持者」や無回答者を考慮に入れて分析すべきであり、私はまさかそこを落としているとは思いませんでした。

今回の選挙を契機として、世論調査の手法の根本的改善が求められることになるであろう。

2016年11月11日

